

第2章

豊かな自然環境を
実感できるまちづくり

第1節 自然環境の保全

第2節 生活環境の整備

第3節 環境資源を活かした地域づくり

第2章

豊かな自然環境を実感できるまちづくり

第1節 自然環境の保全

現況と課題

当市には、石鎚山を代表とする標高の高い地域から、沿岸部に分布する干潟まで、多種多様な環境が存在し、数多くの希少生物の生息も見られ、豊かな自然環境に恵まれています。

しかしながら、石鎚山系を除く山間部には、放置された人工林のため、地盤が脆弱で崩壊しやすくなった地域も見られ、河川や海岸についても、護岸工事や開発により、自然のままに残されている箇所が減少しつつあります。

今後、かけがえのない財産を次の世代に引き継ぐために、自然環境の保全に努めるとともに、豊かな自然とのふれあいを地域の活性化のために有効に活用していく必要があります。

また、当市の多様な環境に適応し生息している数多くの希少生物については、それぞれの環境や生物の状態の把握に努め、生態系に配慮しつつ、共存のための方策を確立し、生物多様性が維持された状態が保てる自然環境を維持していく必要もあります。

計画の体系

自然環境の保全

自然環境の保全と活用

動植物の調査・保護

計画の内容

(1) 自然環境の保全と活用

- ① 計画的な土地利用による自然環境の保全を推進するとともに、開発事業等の実施にあたっては、環境保全のための適切な措置を講じることができる制度の導入を検討します。
- ② 市民の自然環境保護意識の啓発に努め、人と自然とのふれあいを確保するため、必要な施設を整備し、その指導者の育成に努めます。
- ③ 川や里山などの自然資源をまちづくりに活かし、有効活用するための手法を検討します。

(2) 動植物の調査・保護

- ① 市内に生息する動植物を調査してデータベース化し、その保護のため、生息・生育地の一体的な保全を図ります。

主要事業

事業名	事業内容
自然観察会	身近な自然を様々なテーマごとに観察
水と親しむ青空教室	加茂川の水生生物の調査
酸性雨調査隊	pH（水素イオン濃度）試薬を使ったモニタリング調査を実施



基本計画

第2節 生活環境の整備

現況と課題

「大量生産」、「大量消費」、「大量廃棄」がもたらした今日の環境問題は、主に企業活動に起因する産業型から、個人のライフスタイルの変化に伴う都市型・生活型に至るまで、その多様化が進み、廃棄物の不法投棄による環境汚染など国内・地域問題だけでなく、資源の枯渇、地球温暖化、オゾン層破壊など、地球規模のものとなってきており、人類だけでなくすべての生物の存在に関わる脅威となりつつあります。

環境の世紀と言われる21世紀にあって、「3R」や「クールビス」といったキーワードによる環境型社会形成の普及啓発活動を強化することで、徐々に市民や企業の環境意識は高まってきています。

当市においても、今後、環境問題の解決に向けて、より一層市民・企業・行政がそれぞれに課せられた役割を果たし、環境への負荷が少ない、循環型社会の構築を目指していく必要があります。

ごみ・し尿・浄化槽汚泥収集量

(単位：t、kl)

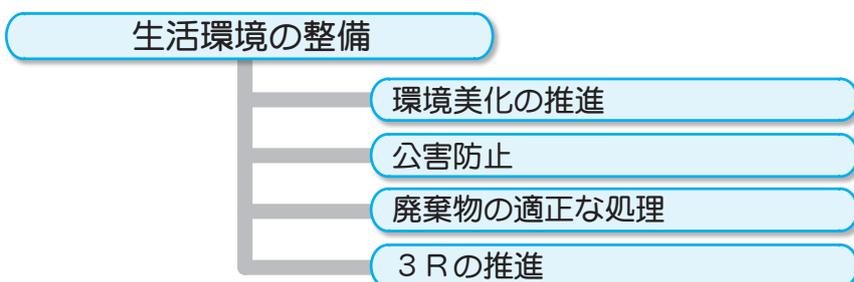
	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
もえるごみ	22,559	22,594	22,909	22,794	22,701
もえないごみ	2,430	2,324	2,280	2,184	2,139
粗大ごみ	900	925	1,035	1,046	917
乾電池	29	28	33	30	25
資源ごみ	3,242	3,048	3,101	3,191	2,953
(内訳) 古紙	2,680	2,491	2,553	2,642	2,412
びん	467	459	446	439	424
ペットボトル	95	98	102	110	117
し尿	19,591	18,770	17,884	18,543	17,465
浄化槽汚泥	12,604	12,958	12,260	12,202	11,558

浄化槽設置状況（補助事業分）

(単位：基)

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
西条地区	34	33	28	18	21
東予地区	132	108	110	108	132
丹原地区	70	60	54	62	71
小松地区	65	48	45	64	36
合計	301	249	237	252	260

計画の体系



計画の内容

(1) 環境美化の推進

- ① 市民、企業との連携の下、環境美化活動や不法投棄、野焼きの防止活動などを推進し、安全で、美しさと潤いを感じる生活環境の創造に努めます。

(2) 公害防止

- ① 快適な暮らしを守るため、騒音、振動、大気汚染、水質汚濁、悪臭等の公害防止に努めます。

(3) 廃棄物の適正な処理

- ① ごみの効果的、効率的な排出、収集、処理システムを構築するとともに、周辺環境に配慮したごみ処理施設、最終処分場を整備し、適正な維持管理に努めます。また、ごみ排出割合に応じた処理手数料の見直しなど、適正な費用負担について検討します。
- ② し尿の適正な処理のため、し尿処理施設の維持管理に努めるとともに、老朽化している施設の整備について検討します。
- ③ 公共下水道及び集落排水施設の計画区域外においては、浄化槽の設置と適正管理を推進します。

(4) 3Rの推進

- ① 循環型社会形成のため、環境に配慮したライフスタイルの確立や社会構造づくりに努め、ごみの発生抑制・再利用・リサイクルを推進します。
- ② ごみの減量化に関する情報提供や普及啓発を推進し、ごみの計画的な減量に取り組みます。
- ③ 排出段階でのごみ、資源の分別を徹底するとともに、資源化のため、さらなる分別品目の拡大に取り組みます。

- ④ 生ごみ処理機の購入助成や資源ごみ集団回収の支援などにより、3Rに対する市民意識の高揚を図ります。

主要事業

事業名	事業内容
環境美化活動・対策の充実	市民参加による河川や公園の一斉清掃 不法投棄ごみ対策の強化
環境保全協定の締結	環境保全体制の整備
(仮称) 東部一般廃棄物最終処分場整備事業	最終処分場の整備
浄化槽設置整備事業	浄化槽設置世帯への補助金の交付
環境教育やごみ減量化啓発活動の推進	施設見学会や自治会等への説明会の実施
ごみ処理の経済的手法の検討	ごみ処理費用の明確化、有料化の検討
効率的なりサイクルシステムの確立	資源化を実践していくための制度づくり 分別種類細分化の推進 集団回収活動への支援
ごみ分別方法の啓発	分別カレンダーの更新
環境配慮型ごみ処理システムの推進	環境配慮型ごみ処理の推進及び施設の整備
災害ごみ対策	台風等による災害ごみの早期対策



第3節 環境資源を活かした地域づくり

現況と課題

当市は、加茂川、中山川をはじめ、中小の河川が貫流しており、平坦部の一部では、全国でも稀な自噴地帯が形成され、生活用水や産業用水、また景観用水として、豊かな「水のまち」としてのまちづくりに活用してきました。

しかしながら、近年の異常気象や森林の荒廃、農地の減少などにより、地下水の水位は低下傾向にあり、また、市内には新たな水源を必要とする地域もあるなど、当市の水資源事情は楽観できない状況にあります。

この貴重な汎用資源である『水』を市民共有の財産として適正に保全するため、限りある資源であるとの認識を持って、『水』を守り、次代に引き継いでいくことが重要な課題となっています。

その上で、水をはじめとした豊かな自然環境を資源として活用し、それらを最大限に活かせるまちづくりを進め、『豊かな自然環境を実感できるまち』を創造する必要があります。

一方で、地球規模での化石燃料の大量使用による温室効果ガスの発生が、地球温暖化の主な原因であると言われています。この解消に向けた取り組みを進めていくことは、地域の自然環境を守ることにもつながっていきます。

豊かな水など地域固有の環境資源を活かした、新エネルギーの積極的な活用や省エネルギー施策を推進していくことが重要な課題となっています。

計画の体系

環境資源を活かした地域づくり

環境資源の保全と活用

省エネルギーの推進と新エネルギーの活用促進

計画の内容

(1) 環境資源の保全と活用

- ① 家庭への節水の呼びかけや河川一斉清掃活動などを通じて、水資源と水質の保全に対する市民意識の啓発に努めます。
- ② 無秩序な開発による水量の減少や水質の汚濁などを防止するため、「西条市地下水の保全に関する条例」に基づき、その利用を制限するとともに、水質保全意識の高揚を図ります。
- ③ 水資源の涵養に向けて、『水源の森』の整備を検討します。
- ④ 自然との共生におけたエコツーリズムを推進するため、ビジターセンター等の整備や案内人の養成について検討します。
- ⑤ 水の科学資料館の整備について検討します。

(2) 省エネルギーの推進と新エネルギーの活用促進

- ① 公共施設における省エネルギー活動をはじめ、市民や企業における省エネルギー普及拡大など、市民、企業、行政が一体となって省エネルギーに取り組むよう意識啓発を図ります。
- ② 全国有数の日照量を誇る当市の特性を生かし、公共施設や一般家庭への太陽光発電システムの導入を促進します。
- ③ 市内を流れる豊富な流水を活用した、小水力発電システムの導入を検討します。
- ④ 地域技術である、工場排熱と地下水を組み合わせたMH冷凍システム*などについては、さらなる開発を進め、新エネルギーとしての汎用化に向けた取り組みを進めます。

MH冷凍システム
水素吸蔵合金（MetalHydride合金）が、水素を吸蔵する時に発熱し、放出する時に吸熱するという性質を利用した冷凍システムのことです。フロンガスを使わないため、環境への負荷が少ない。

主要事業

事業名	事業内容
地下水観測	地下水観測井戸における地下水位の観測及び地下水の水質調査
河川一斉清掃	水質保全区域の河川の一斉清掃
住宅用太陽光発電システム導入促進事業	一般家庭向け太陽光発電システムの普及
新エネルギー活用事業	MH冷凍システムの汎用普及型機の開発 流水を活用した小水力発電システム導入の検討